

平成23年度  
共同利用・共同研究拠点に  
関する活動状況（参考資料）

2012.6

金沢大学がん進展制御研究所

## 平成23年度 共同利用・共同研究拠点に関する活動状況

### 1. 共同利用・共同研究の活性化に向けた取組状況

#### (1) 他機関との連携に関する特色ある取組

事業名	がんの細胞社会学の創出事業
実施期間	平成22年度～平成26年度(5年)
連携先	大阪大学微生物病研究所, 東京医科歯科大学難治疾患研究所, 東京大学医科学研究所・東京大学医学研究科, 慶應義塾大学医学部, 米国MDアンダーソンがんセンターがん生物学研究部門, 米国国立がん研究所 フレデリック支所, 中国復旦大学上海がん病院
事業概要	がん組織は, がん幹細胞を始めとする階層性を持つがん細胞集団と血管内皮細胞・線維芽細胞などの種々の正常細胞集団からなる細胞社会である。細胞社会的な観点からがんを研究し, がんに対する新たな治療法を開発する。
23年度実績	総額 30,000 千円 運営費交付金特別経費 16,100 千円 運営費交付金基盤経費(学内負担) 13,900 千円

事業名	がんの診断・治療法の開発を担う医科学研究者の育成
実施期間	平成20年度～平成24年度(5年)
連携先	米国MDアンダーソンがんセンター がん生物学研究部門, 米国国立がん研究所 フレデリック支所, ノースウエスタン大学 免疫微生物研究部門
事業概要	国際的レベルの研究能力を持った, 基礎研究を理解した医師=physician scientist と臨床病態を理解している基礎がん研究者を養成するため, 若手研究者の海外連携機関への派遣, 当機関と連携した国際シンポジウムの開催, 若手研究者対象の上級英語クラスの開講等の事業を行う。
23年度実績	総額 16,990 千円 受託事業経費 16,990 千円

#### (2) 国公私を通じた研究者の参加を促進するための取組状況

- 1) 共同研究計画の公募を行い, これを研究所のホームページのみならず, 関連学会のホームページ等に掲載することで, 全国の幅広い研究者に共同研究計画を周知するように努めた。
- 2) 「研究所ネットワークシンポジウム」, 「金沢国際がん生物学シンポジウム」等を主催し, 研究所の研究活動の周知に努めるとともに, 関連分野の研究者を招へいすることで, 共同研究の推進を図った。
- 3) 共同研究計画に採択された研究者によるセミナーを3回ならびに合同ミーティング2回を行った。
- 4) 周辺の医薬系の学部を持つ大学に対して, 共同利用・共同研究に関する説明を行った。

(3) 新たな学術動向や国内外の研究動向把握のための取組

政策課題対応型研究推進セミナーと題し、講師には各分野でのトップリーダーの方々に講演を頂き、最新の学術動向・研究動向の把握に努めている。

- ① 演題「有機イオン輸送体による薬物動態制御と医薬品開発への展開」  
講師：金沢大学医薬保健系・薬学系・教授 玉井 郁巳
- ② 演題「細胞増殖制御におけるエピジェネティクス制御機構」  
講師：名古屋市立大学大学院医学研究科・講師 島田 緑
- ③ 演題「細胞競合によるがん制御」 講師：神戸大学大学院医学研究科・特命准教授 井垣 達吏
- ④ 演題「スーパーコンピューターによるがん治療抗体医薬品の分子設計」  
講師：東京大学先端科学技術研究センター・教授 児玉 龍彦
- ⑤ 演題「オートファジーを標的とした難治疾患克服への戦略」  
講師：東京医科歯科大学難治疾患研究所・教授 清水 重臣
- ⑥ 演題「ヒトT細胞白血病ウイルス1型の病原性発現機構」  
講師：京都大学ウイルス研究所・教授 松岡 雅雄
- ⑦ 演題「FRETバイオセンサーで生体内情報伝達を視る」  
講師：金沢医科大学 腫瘍病理学・教授 清川 悦子
- ⑧ 演題「新規選択的ALK阻害剤の研究開発」  
講師：中外製薬株式会社臨床開発本部・部長 青木 裕子
- ⑨ 演題「テロメラーゼとがん幹細胞」  
講師：国立がん研究センター・分野長 増富 健吉
- ⑩ 演題「腸管上皮幹細胞培養の確立と応用」  
講師：慶應義塾大学医学部消化器内科・特任講師 佐藤 俊朗

2. 共同利用・共同研究を活かした人材育成の状況

(1) 共同利用・共同研究を活かした人材養成に関する特色ある取組

共同利用・共同研究に参加している外部機関の研究者グループとの間において、合同で共同研究セミナーを開催することで、それぞれの研究グループの代表者のみならず、中堅・若手の研究者の間においても交流が行われるよう配慮している。

3. 共同利用・共同研究の国際的な取組状況

(1) 外国語ホームページの整備状況

有	<input type="radio"/>	無		言語名	英語
---	-----------------------	---	--	-----	----

(2) 国際公募の実施状況

有		無	<input type="radio"/>
---	--	---	-----------------------

(3) 共同利用・共同研究の外国人研究者専用枠の有無

有		無	<input type="radio"/>
---	--	---	-----------------------

(4) 外国人研究者の受入体制及び環境整備の状況

海外3カ国4機関と学術交流協定を締結し、外国人客員教員を招聘する等、研究所の研究活動に資する体制を整備している。

(5) 国際的な情報提供・情報発信の取組

国際シンポジウム「金沢国際がん生物学シンポジウム」を毎年開催し、国際的な情報提供・情報発信の場となっている。

(6) 国際的な共同利用・共同研究拠点として、特色ある取組等

国際的研究能力を持った研究者を養成するため若手研究者を毎年海外連携機関へ派遣している。また、国際シンポジウムを毎年開催し、海外研究機関から著名な研究者を招聘するなど国際的な最新の知見を得るよう取り組んでいる。

4. 拠点の機能についての自己点検評価及び外部評価の実施状況

(1) 拠点の機能についての自己点検評価及び外部評価の実施状況

区分	実施年度	評価実施方法	主な指摘内容等	指摘を踏まえた改善のための取組
自己点検評価			該当事項なし	
外部評価			該当事項なし	